

平成27年度一般幹部候補生（陸上自衛隊（大卒程度試験）音楽要員）採用のご案内

1 陸上自衛隊音楽隊とは

陸上自衛隊には21隊の音楽隊があり、全国各地で自衛隊の広報活動や各種式典、隊員の士気高揚などのために幅広く演奏を行っています。

なかでも中央音楽隊は、国賓・公賓に対する特別儀仗をはじめとする国家的行事の演奏を担当し、日本を代表する吹奏楽団として世界的に知られた存在です。

また東日本大震災では、多くの陸上自衛隊音楽隊が被災地で演奏を行い、合計演奏回数は450回を超えました（陸海空音楽隊合計）。

陸上自衛隊では、すべての音楽隊隊員が理論と演奏の初・中・上級教育を受けるほか、編曲法、ドリルコンテ作成、音響機材操作など専門実務の教育も行って音楽隊としての能力向上に努めています。



特別儀仗



定期演奏会



自衛隊音楽まつり



海外演奏



災害派遣演奏



編曲法教育

【全国の音楽隊】

No.	部隊名	所在地	No.	部隊名	所在地
1	中央音楽隊	東京都練馬区	12	第12音楽隊	群馬県北群馬郡
2	北部方面音楽隊	北海道札幌市	13	中部方面音楽隊	兵庫県伊丹市
3	第2音楽隊	北海道旭川市	14	第3音楽隊	兵庫県伊丹市
4	第5音楽隊	北海道帯広市	15	第10音楽隊	愛知県名古屋
5	第7音楽隊	北海道千歳市	16	第13音楽隊	広島県安芸郡
6	第11音楽隊	北海道札幌市	17	第14音楽隊	香川県善通寺市
7	東北方面音楽隊	宮城県仙台市	18	西部方面音楽隊	熊本県熊本市
8	第6音楽隊	山形県東根市	19	第4音楽隊	福岡県春日市
9	第9音楽隊	青森県青森市	20	第8音楽隊	熊本県熊本市
10	東部方面音楽隊	東京都練馬区	21	第15音楽隊	沖縄県那覇市
11	第1音楽隊	東京都練馬区			

2 一般幹部候補生（陸上自衛隊（大卒程度試験）音楽要員）について

将来、音楽隊の指揮者として活躍する幹部を募集するものです。

採用されると、幹部自衛官として必要な能力を身につけるため、幹部候補生学校で約10ヶ月の教育を受けます。その後、中央音楽隊をはじめとする全国の音楽隊に勤務し、音楽隊の運営に携わるとともに指揮者（隊長）として活躍します。

また武蔵野音楽大学、東京藝術大学における研修制度があり、それぞれ1年間、指揮や作曲などの教育を受けることができます。

3 音楽適正検査について

(1) 内容

陸上自衛隊（大卒程度試験）音楽要員希望者の第1次試験合格者に対し、第2次試験として小論文試験、口述試験、身体検査の他、下記の内容の音楽適性検査を受けていただきます。

No.	項目	内容
1	楽器検査	任意の独奏曲の演奏（8分程度）
2	視唱検査	8小節の新曲（高音部譜表）の視唱
3	聴音検査	8小節の単旋律の聴音 8小節の和声（4声）の聴音
4	指揮検査	吹奏楽の指揮（約35名編成） 吹奏楽のための組曲第2番へ長調／G. ホルスト 第1楽章：曲頭からD. C後6小節目まで 第2楽章：全曲

(2) 場所

陸上自衛隊中央音楽隊（陸上自衛隊朝霞駐屯地）

〒178-8501 東京都練馬区大泉学園町

（最寄駅：東武東上線「和光市駅」）

4 入隊後の一般的な仕事

年齢	20代	30代	40代	50代
勤務内容	幹部候補生学校 武蔵野音楽大学研修 教官、演奏幹部 方面音楽隊音楽班長 師団・旅団音楽隊長	東京藝術大学研修 中央音楽隊班長 陸上幕僚監部勤務	方面音楽隊長 中央音楽隊科長	中央音楽隊長 中央音楽隊副隊長

5 その他

- (1) 受付期間、採用予定数、応募資格、第1次試験及び2次試験について「平成27年度自衛隊幹部候補生募集要領」をご参照ください。
- (2) 【音楽適性検査】に関するお問い合わせ
陸上自衛隊中央音楽隊企画科人事班（048）460-1711（内線3604）

6 幹部紹介

陸上自衛隊音楽隊の3名の幹部を紹介します。



3等陸佐 柴田 昌宜
役 職：陸上幕僚監部広報室

1980年兵庫県生まれ。大阪音楽大学卒業（トランペット）、同大学専攻科修了（指揮）

2003年、陸上自衛隊に一般幹部候補生として入隊。幹部候補生学校を経て中央音楽隊の所属となり、全国音楽隊員への教育を担当する。東部方面音楽隊を経て2007年から第1混成団音楽隊長（現・第15音楽隊：沖縄）を務める。

2011年、派遣履修生として東京藝術大学で研鑽を積み、中央音楽隊運用訓練班長を経て、2015年3月から陸上幕僚監部広報室に勤務している。

ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院夏期国際マスター・クラスにてディプロマを取得するとともに、優秀者演奏会に選出されドイツ・カンマー・フィルハーモニーを指揮。

指揮を松尾昌美、夏田昌和、P.ギュルケ、作曲法を川島素晴、トランペットを橋爪伴之、D.ドワヨン、竹森健二の各氏に師事。

受験をめざす方々へ

□入隊のきっかけは？

■指揮科在籍中に、たまたま通りかかった大学就職課の掲示板に幹部候補生の募集要項が掲示されているのを見つけ、自衛隊地方協力本部に問い合わせたのがきっかけです。

高校や大学の先輩に音楽隊に入隊されていた方がいらっしやっただことや、学んできた指揮や音楽の能力を活かせる就職先ということから興味を持ちました。

□音楽の勉強は続けられますか？

■はい、続けられます。音楽大学を卒業したからといってもまだまだ途上段階ですから、逆に継続して勉強してもらわないと困りますね(笑)。

私の場合、音楽隊に配属になってからも数年間は指揮や作曲、楽曲分析等を個人的に師事し、また長期的な休暇や東京藝術大学での研修期間を利用して、海外の指揮コンクールや短期のマスタークラスにも参加しました。

□自衛隊のことがわからず心配です。

■幹部自衛官に共通して必要な知識や能力などは、入隊後に幹部候補生学校で学ぶこととなりますので心配いりません。また音楽隊に配属になった後の業務も、その都度親身な指導を受けながらできるようになっていきますので大丈夫です。

□一番やりがいを感じる時は？

■陸上自衛隊の各音楽隊は年間に約100回の演奏活動を行っており、毎回演奏の後に達成感を得ながら仕事できるのは本当に幸せなことだと思います。

また自衛隊では幹部自衛官は少なからず管理職につき、指導的な立場に立つことを期待されています。責任の重さに負けそうになることもあります。任される仕事の範囲が広く、とくに大きな任務や行事をやり遂げたときの達成感は格別です。

1等陸尉 富田 淳子
職 名：第2音楽隊（北海道旭川市）隊長

愛媛大学教育学部を卒業後、1992年3月、陸上自衛隊に入隊し、第3音楽隊（兵庫県伊丹市）ホルン奏者として勤務。

2002年、幹部に任官し、翌年4月から1年間、武蔵野音楽大学にて研修し、指揮者として必要な知識や技術を学ぶ。

以降、第14音楽隊（香川県善通寺市）副隊長、中央音楽隊（東京都練馬区）教科教官、人事班長、北部方面音楽隊（北海道札幌市）副隊長を歴任し、演奏指揮の他、音楽隊の運営に必要な諸業務を担当。

2014年8月、第2音楽隊長に就任し、自衛隊音楽隊初の女性隊長として活躍している。



受験をめざす方々へ

幹部の勤務は、2～3年程度でポジションが変わり、さまざまな経験を積むことができます。そのような短い期間だからこそ、「自分が勤務した証を残したい」と思う気持ちが強くなり、より充実感を味わうことができます。

また、受験を考えている女性の中には「女性で務まるのだろうか」と心配に思う方もいらっしゃると思います。私の経験から申し上げますと幹部に必要なことは、男性並みの体格や体力ではなく向上心と強い意志ですので、女性でも大丈夫です。

これから皆さんが就職を検討されていく上で、この職業を選択肢の一つにしていれば幸いです。



3等陸尉 川良 匠
職 名：中央音楽隊（東京都練馬区）運用訓練幹部

国立音楽大学を卒業し、2012年3月、陸上自衛隊に入隊し、第10音楽隊（愛知県守山市）サクソフォン奏者として勤務。

2014年、一般幹部候補生に合格し、陸上自衛隊幹部候補生学校（福岡県久留米市）において幹部に必要な基礎的事項について教育を受け、2015年1月から中央音楽隊運用訓練幹部として勤務している。

2015年4月から1年間、武蔵野音楽大学において指揮者として必要な基礎的事項を学ぶため研修する。

受験をめざす方々へ

幹部候補生学校での教育は、音楽一筋でこれまできた私にとって、今までに味わったことのないくらい、辛く厳しいものでした。ですが、厳しくも手厚い指導をしてくださった教官と一緒に支え合い頑張り抜いた同期の存在が自分を強くさせ、どんな試練にも耐えられ、乗り越えることができました。

演奏指揮については、まだまだ不安なことが多くありますが、研修の機会を活かし立派な音楽隊の幹部になれるよう、今まで以上に努力を惜しまず頑張ります。